

# 蕨岡だより

平成二十一年三月(弥生)

第百五十八号



鳥羽市松尾町七五三番地

加茂神社

TEL 25-3419  
E-mail nom@ilac.ocn.ne.jp  
ホームページ http://www.kamojinja.com  
Fax 25-3419

この丘に生きるものみないとおしく  
木の実がこぼれ茶の花が咲く

三枝 昂之(歌会始選者)

「米国某州の某市に、猛獣の剥製を陳列した博物館があるさうだ。ライオンや豹、虎、狼の剥製を見ながら順路をたどって行くと、出口の手前に大きな鏡が架かってゐて、観客の全身像が映し出される。鏡の脇の説明文に曰く、「そこに立っているのが、猛獣の中で最も兇悪な猛獣です」(『老年の慈悲心』阿川弘之)

まさにその通り。地球を我が物顔にのさばり、破壊の限りを尽くし、近頃は、まるで流行のように、樹木の伐採が甚だしく、身近かな里山でさえ、すっかり、明るくなってしまいました。

今日は、めずらしく小春日和。

社務所の裏のせせらぎにサワガニが、そして、広場の隅にツクシが、かわいい笑顔を見せてくれました。

## ★月次祭

一日(日) 午前十時

## ◎例大祭

八日(日) 午前十時

明治四十三年、松尾の産土神と伝えられる蕨岡神社に、加茂五郷のうち、船津を除く、白木・岩倉・河内・松尾が合祀して、村社・加茂神社が誕生しました。祭神は、紀記に現れる八柱の神々で、

神代において、須佐之男命は、かねてから荒々しい行状を悔やみ、高天原へ帰るとき、天照大神との誓約(うけひ・古代の占い)によってお生まれになったとされる、五男三女の神々です。

五男 正勝吾勝速日天之忍穂耳命  
・天之菩卑能命 天津日子根命  
・活津日子根命 能野久須毘命  
三女 奥津島比売命 市杵島比売命  
・多岐津比売命

その他、須佐之男命・稲田姫命・大山祇神・弁財天・オタイ神・荒神・水神・氏の神・足の神など、多くの神々をお祀りしています。

江戸期には、宮司の職制はなく、禊屋一老によって運営しました。明治以降の歴代宮司は、次の通りです。

中村斎太郎(江戸期当村禊屋老宮司・明治八年) : 中村英彌(昭和三十四年・宮司) : 北川房太郎(社掌) : 野村庄吉(同三十四年宮司代務、同四十二年・宮司) : 中村文雄(同四十五年・宮司) : 松本茂一(同四十六年祓宜、同六十一年・宮司) : 中村文雄(平成七年・宮司) : 野村逸良(同七年祓宜、同九年・宮司)

★樹木採取の注意  
【フキノトウ】  
樹の根元に、春の幕開けを告げる。ほろ苦さも、春の味わい。冬眠から覚めたヒグマはすぐにエネルギーを探るか。

## ★安齋進進

玉串料 厄歳者一同様  
玉串料 押田 清隆様  
神 饌 厄歳者一同様  
神 饌 川中 毅様  
神 饌 下川 忠幸様  
神事用品 榊原 義雄様

## ★七五三詣

乳幼児から子供への成長を感謝する行事が、七五三詣です。一般に三歳は「髪置」と呼び、男女ともお祝いします。五歳は男子の「袴着」、七歳は女子の「帯解」のお祝とされています。

全国的には、秋の刈り取りも済んだ、十一月十五日前後にお参りしますが、雪の多い地方では、一カ月早めておこなうところもあります。

## ◇一人学子・卒業生の奉仕

「神さまに守られて、自信をもって実力が出来ますように」受験シーズンになると、多くの受験生が、神さまにお参りする姿が見られます。学徳のほまれ高い、菅原道真公は「天神さま」として、江戸時代、庶民の勉学の場であった寺小屋では、必ずおまつりされていました。

今でも神前で心をしずめ、ものごとに臨むのは大切なことです。入学や卒業の際にも、氏神様に参拝して、そのことを必ず奉告しましょう。

## ★新法夜祭

二月「冬の夜」  
作詞・作曲者不詳  
灯火近く 衣縫う母は  
春の遊びの 楽しさ語る  
居並ぶ子供は 指を折りつつ  
日数かぞえて 喜びいさむ  
囲炉裏火はトロトロ 外は吹雪

囲炉裏の端で 縄なう父は  
過ぎし戦の 手柄を語る  
居並ぶ子供は 眠さ忘れて  
耳を傾け 拳を握る  
囲炉裏火はトロトロ 外は吹雪

囲炉裏(いろり) : 夜業(よなべ) : いまはなつかしい思い出ばかり。静かで、暖かい、冬の夜の、ひとときでした。

(月次祭は、いつも宮司夫妻だけで斎行させていただいていますが、十二月と一月は、他の神事と併行いたしますので、奉仕して下さる方々があり、老婆は、遠慮させていただきました。)



★盗りとなりはてしとう教え子の  
夢に來たりて手をとって泣く